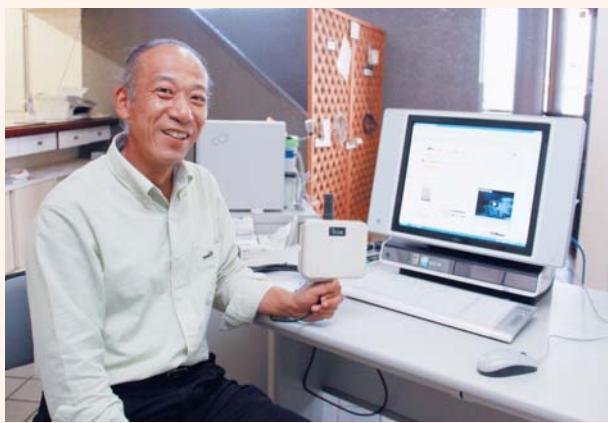


高速無線ネットワーク技術でブロードバンドサービスを展開

NPO法人Hug-Communications (三野町)



▲地域振興や災害時にも柔軟に対応する無線通信網を目指しています

く、高速化と安定性が両立され光ケーブルの中継に利用されているほどです。「家々までのケーブル敷設が不要、光ケーブルに劣らない通信性能、設備や運用コストの低さ、大手にはできない地域密着型事業展開など、多くの特色があります。今や、少子高齢化・過疎・防災などの地域課題解決には、地域特性に応じたインターネットの活用が欠かせない時代です。ハード・ソフト両面から地域活性化につながる仕組みを作りたい」と、事務局長の齋藤さん。現在、三野町全域に加え詫間町松崎・須田地区も開局。今後、栗島などの島しょ部を含め市全域への拡張を目指しています。

ライフラインである情報通信網を、より安く多用途に活用できる方法を提案する NPO 法人 Hug-Communications (ハグ・コミュニケーションズ)。地域振興の基盤整備のために、高速無線を利用したブロードバンド・インターネット接続サービスを提供しています。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災では、有線による情報通信網のもうさが露呈しました。しかし無線なら機器さえ動けば通信が可能で、停電時は自動車などから給電することもできます。しかも、有線ラインを引く必要がなく、短期間に広範囲に通信網の整備ができます。近年の無線技術の進歩は目覚しく、

みとよの がんばる中小企業 10

三豊発!! タケノコの生命力を活かした肥料

高瀬町村興し炭焼会(高瀬町)



▲効果が実感できるタケノコ肥料

竹炭や竹炭かご、竹酢液などの竹炭製品を中心に製造販売を行っている高瀬町村興し炭焼会。会長の吉田さんは平成4年から竹資源を活用した製品事業に着手。平成12年には香川県むらの技能伝承士に認定。以来、竹炭・竹炭酢の作り方を県内各地で指導し普及活動に取り組んでいます。

今回は、1日で1m強伸びると言われる竹の生命力を活かしたタケノコ肥料の商品化に取り組みました。

取り組むキッカケとなつたのは竹酢液。殺虫殺菌作用や土壤改良剤としての実績もありますが、材料の竹を山から切り出して来るのにはかなりの重労働。そこで、誰でも簡単に採れるタケノコで肥料を作れないかと思い立ちました。

タケノコ肥料は、粉碎して乾燥させたものと、発酵させて液を抽出したものとで南国フルーツのデコポンを使って検証しました。吉田さんは「もともと寒さに弱いデコポンですが、タケノコ肥料を使いながら栽培すると通常13度程度の糖度が18度にまでなり、ものすごく甘いデコポンになりました。タケノコ肥料の生命力には驚くことばかり」と試行錯誤を繰り返しながら、いち早い商品化を目指していくま